

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 樽川ふれあいハウス 2階	評価実施年月日	平成19年10月24日
評価実施構成員氏名	奈良 るり・和田 由美子・倉本 裕紀子・松尾 祐邦・榎 理江・藤下 育子		
記録者氏名	藤下 育子	記録年月日	平成19年10月24日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>実施している。【住み慣れた地域で安心した暮らしができる】とうたっており、スタッフ全員が日々心がけるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>地域の一員として、町内会でのお祭りなどのお手伝いへも参加をしたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念をフロア内に掲示し、いつでも見て理解ができるようにしている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族へは、毎月のたよりや、フロア内での掲示物にて告知している。</p>	<p>○</p> <p>ご家族への理解は今後もたよりや掲示物などで継続的に行うと共に、地域の方々へは、どのように告知していくのかを検討する。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>入居者様及び職員も、近隣の方々への挨拶をしており、また、入居者様自身も自ら積極的に声を掛け、会話を持たれることが多くあります。また、行事(夏祭りや花火大会など)の際には、ご近所の方へも声をかけ、沢山の方が遊びに来られる環境を整えており、参加をさせていただいております。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会のクリーン作戦や花壇づくりなど、積極的に参加をしております。</p>	<p>○</p> <p>地域の老人会への参加など、もっと積極的に交流をする。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>顔を合わせ、挨拶程度ならば行っているが、積極的な取り組みは行っていない。</p>	<p>○</p> <p>地域に住んでいる高齢者との交流を図り、認知症の方への理解を深めていただけるように考えたい。また、積極的にホームで行っている行事などへの参加をしていただけるように配慮したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価項目に関し、スタッフ内でも話し合いを行い、改善事項に関しては、改善に努めている。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議が行われている。毎月の入居者様の状況報告したり、時には一緒に食事をしたりしている。そこでの意見などを取り入れ、反省しサービス向上に努めています。</p>	<p>○ スタッフや地域の方々など、もっと参加しより良い会議にしていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>地域で行われている各種会議(地域ケア会議やケアマネ連絡会議など)へ積極的に参加し、知識を得る事も含め、サービス向上へ取り組みを行っている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>管理者は学ぶ機会を持ち、状況に応じて対応を行えるようにしている。</p>	<p>○ スタッフが学ぶ機会が少ないので、今後はホーム内での勉強会などを企画し、学ぶ機会を作りたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>介護に携わる機会に、具体的な例を上げて虐待にあたるかどうかを説明して貰うなどしている。また、スタッフも疑問に思った時には管理者は総合施設長へ尋ねるようにしている。</p>	<p>○ もっと言葉遣いなど、スタッフ個人レベルでも気をつけてケアにあたる。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に説明を行う事と共に、疑問に思われたり質問をされたりしたなどの状況に応じて説明を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者様からの苦情などは、スタッフ会議などの席でスタッフ全員に周知し、今後の対応などの話し合いを行い、ケア・運営の向上に反映させている。</p>	○	<p>外部の方へは、特に表すことがなかったので、今後は運営推進会議の場などを利用していきたい。</p>
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>お便りや面会に来られた時など、個人の預かり金の確認や行事などの報告・日常生活・健康状態などを報告しております。また、なかなか来られないご家族に関しては、メールなどを利用し健康状態や精神状態などの報告を行うように心がけている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ホーム内にご家族や外部の方が意見や苦情等を申し受ける用紙が置かれているが、殆どの場合スタッフへ直接話をされていることが多い。また、相談や意見などがあった場合、会議の場などで話し合いを行い、改善するように努めている。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>スタッフ会議の場などで通達があり、それについて話し合い・意見を出すことができる。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>出来る限りの努力を行っている。パート職員の補充や総合施設長・副施設長が状況に応じて介護に携わってくださっている。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>人事異動や離職はやや多いように思われる。しかし、入居者様への配慮は在職しているスタッフが関わりを多く持つことによりしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内外問わず、研修の案内は掲示されている。積極的に進めている。	○	実際にスタッフ自身が行きたいと思っている研修や講義があったとしても、休みが調整できなかったり・金額(自己負担)が高かったりするので、研修に行きやすい環境を整えて行きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	お互いの施設間で、お祭りなどの行事がある際には訪問しあい、また、地域ケア会議などの参加により、関係を深めるように努力している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	年に4回懇親会を開いています。また、夏祭りの後に打ち上げ・忘年会などが開かれるなど、取り組みは行われている。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	給料体系や研修への参加、資格取得への協力などの取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	話をじっくりと聴く努力を行っている。	○	より多く時間をとり、しっかりと不安や求めている事を聞き取りできるように配慮する。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	話をじっくりと聴く努力を行っている。	○	より多く時間をとり、しっかりと不安や求めている事を聞き取りできるように配慮する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談時は、総合施設長が行っている。また、入居時に関しては、ケアプランを作成することにより、本人・家族双方の意見を聴き、作成した上でサービスを行っている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	馴染みながら、ご本人の希望や意見を聞きながら進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	自分で出来ることは自分で行っていただいている。不安な場合は一緒に行くことにより、支えあえる関係を意識し対応している。	○	出来る事までスタッフが手を出してしまっている現状もみられているので、一方的に介護される人も出ている現状も踏まえ対応する。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日々の生活の様子を面会時に知らせたり、おたよりでご連絡を行うことにより、情報の共有を行なう様努めている。	○	出来る限り、行事などを事前に連絡し、ご家族様も参加できる環境を整える。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族様からの意見や思いを受け止め、入居者様の生活支援に生かされる様に、また入居者様の様子などもご家族様へ伝えることにより、関係構築に努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様から情報を得て、場所や人などを理解するように努めているが、実際には十分な支援ができていない。	○	状況に応じて柔軟に対応できるよう、体制の見直しを行いたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者様同士のトラブルがあった場合など、お互いの意見を聴き、中立な立場でフォローするように努めている。また、孤立しないように、入居者様の間に立ち話題を振るなどの対応も行っている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在は、そのようなケースがなかったため、行われていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの生活歴や暮らし方など、個人を尊重した対応を心掛けているが、対応が難しい面も多くみられている。また、入居者様自身が自分の気持ちを表出することが困難な場合に関しては、ご家族から聞き取りを行ったり、スタッフ間で話し合いを持ったりし、できる限りの対応を心掛けている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様やご家族様から聞き取りを行い、把握に努めている。また、その場合、状況に応じてセンター方式などのアセスメントツールも利用している。	○	アセスメントツールをもっと有効に活用して、より一層、対象理解を深められるように努力していく。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの一日の過ごし方などをケース記録として残し、対象理解ができるように努めている。また、状況に応じてケースカンファレンスを行うことにより、スタッフ全員が情報を共有できる環境を整えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプランの作成などは行っているが、しっかりと適切な管理が行えているとは言えない。また、アセスメント・カンファレンス(サービス担当者会議)などは不十分な面も多くあった。	○	しっかりとアセスメント・ケアカンファレンス(サービス担当者会議)を行うことにより、より一層良いケアプランを作成していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監視のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状況に応じてプランの変更などを検討し、実施しているが、不十分な面も多くあった。	○	変化に対応しきれない面もあったため、早急な対応など柔軟に行える体制を整え実行する。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日ケース記録という形で記録をし、情報の共有を行っている。また、その情報をケアプランに反映させるように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	行えるように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防訓練時の消防の協力や、状況に応じて歌や踊りなどのボランティア・お祭りなどのボランティアなど、積極的に協力をしていただいたり、状況に応じてできることに関しては協力を行っている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	特にそのような希望がある方や、必要性がある方がおられず、支援を行っていない。	○	必要性がある方がおられる時には、積極的に行っていく。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	特にその様な必要性がある入居者様がおられないため、支援を行っていない。	○	必要性がある方がおられる時には、積極的に行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	日常の健康管理に関しては週2回看護師が来られて対応。また、必要に応じて24時間の対応も行ってくださっている。かかりつけの病院・協力病院もあり、健康管理の支援をしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医などは専門医ではないが、認知症に対する理解がある医師が多い。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居者様の体調管理のため、週2回の訪問及び24時間体制で連絡を取れる状態になっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	状況に応じて、病院関係者・ご家族と打ち合わせを行い、情報交換などを行っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族や入居者様に対し事前指定をとり、話し合いを行うように心がけている。スタッフ全員での情報の共有は行われていない。	○	今後は全員に情報の共有を行えるように心がける。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	現在は、そのようなケースがなかったため行われていないが、今後は行いたい。	○	必要性がある方がおられる時には、積極的に行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替えが必要な状況が出た場合、しっかりと話し合いを行い、ダメージを最低限に抑える努力を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーに対する配慮を行っているが、時折配慮が足りない言葉掛けを行う場合がある。また、個人情報に関しては、記録物やデータなどを持ち出さない様になっている。	○	プライバシーを損ねるような言葉掛けがあった場合、速やかに介護部長及び管理者からの指導が行われている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定が出来る環境を整え、言葉掛け・見守り・援助を行っている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	全員には出来ない事が多い。一人ひとりの今日の様子に対応をするよう心掛けている。また、日常の業務(入浴・買い物・受診等)に追われてしまい、待っていただいたり・気をそらせてしまったりしている場合も多々ある。	○	もっと入居者様の希望に添い、何をしたいのか・何ができるのかなどの希望に沿った支援を行いたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	身だしなみに気をつけ、対応を行っております。また、美容室など、馴染みのお店への対応がご家族にご協力をいただいている状態。訪問美容室を希望される場合は、職員側で連絡を取り対応しております。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者様と共に、準備や片付けを行っている。また、メニュー作成時も、入居者様に協力していただいている時もある。しかし、同じ方が手伝われる場合が多くみられていた。	○	決まった方ばかりではなく、他の方々も参加できる様な取り組みを工夫したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	健康的・金銭的などの問題から、量を決められてしまっている場合もあるが、全面的に禁止をされている状況ではないため、楽しめる環境は提供している。	○	たばこなどの本数が決められている場合、少しでも本人にとってストレスのかからない対応などのケアを求められているので、現在検討中である。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの状態に合わせて、トイレ誘導を行うまた、排泄用具の検討(尿取りパットやリハビリパンツの利用など)を随時行っている。また、センター方式などのアセスメントツールを利用し、排泄のパターンを把握するように努めている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	週2回入浴日を決めている状況ではあるが、希望に合わせて入浴をしていただいている。また、入浴日ではない日の入浴の希望など、状況に合わせて対応を行っている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	その方によっては、自室にて休息を取られるなどされている。また、日中は活動量が多く確保できるように対応をし、夜間に安眠できるよう配慮しケアを行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	散歩や買い物・ドライブ・行事への参加など、気晴らしになるようにレクリエーションや日常生活内での楽しみなどを計画し、行っているが、個別対応にはなっていない。	○	個々の希望に応じた対応が出来る様に、ケアの内容を検討し、実行するように努める。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が出来る方に関しては、お小遣い帳などをつけ一緒に管理をするように心掛けている。それぞれのレベルに合わせて対応を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	同じ方が出かけられる場合が多くあるが、散歩や買い物など出かけられる支援を行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	計画的に行事としてドライブなどを企画し外出支援を行っている他、入居者の希望に添い急遽カラオケや買い物などの外出の支援も行う事もある。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	入居様が希望された場合、電話連絡を行ったり、お手紙を送ったりなどの対応を支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間が決まっていないため、ご家族様の他、昔馴染みの知人の方など、気軽に面会に来てくださっている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	実際に、身体拘束を行わないケアの実践をしているが、『介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為』を理解できていないスタッフもいる。	○	『介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為』を正しく全員が理解し、実践する。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間以外は施錠をしていない。また、何らかの事由があり施錠を行わなければならない場合に関しては、業務日誌に時間帯(何時から何時までか)及び理由を記入している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室で過ごすことが多い方に関しては、定期的に行動を把握する為に訪室しております。また、常に外出の欲求がある方など動きの多い方に関しては、所在などの把握をし、安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤など、誤飲などの危険性があるものに関しては、しっかりと職員側で預かるなどの保管管理をしている。また、自己管理ができる方に関しては、決まった場所に保管していただき、定期的に保管状態を確認している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	マニュアルを作成し、いつでも見られる状態にしている。また、避難訓練を年2回行ったり、ひやりはつとを記入し内容を検討することによりスタッフ全員が事故防止を心掛けている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当のマニュアルは作成いつでも閲覧できる環境にあるが、定期的な訓練などは行われていない。	○	普通救命救急講習の受講を予定している。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	火災訓練(日中想定及び夜間想定)を年に2回行っている。また、地域の防災訓練へも参加している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	必要な方に対し、管理者及び総合施設長がご家族と話をしている。	○	もっと積極的にご家族と話し合いの機会を持ち、また、スタッフへもしっかりとした伝達ができるように配慮する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日定時にバイタル測定を実施し、継続的に体調の変化を確認し、申し送りにて情報共有をしている。体調に変化が見られた時などに関しては、管理者・看護師に連絡し、その状態に合わせて病院受診等の対応を行っている。</p>	
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬管理表を作成し、入居者様が何を飲んでいるのか・何に効く薬なのかを把握している。また、薬の管理はスタッフ側で行い、誤薬がないように努めている。</p>	
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>毎日排便のチェック(必要な方には、何時にどの位の量が排泄されたかをチェック)を行い、状態に応じて医師からの指示に合わせて下剤を服用していただいている。また、水分や食物繊維の多い食材(野菜や果物)を調理の際に多用し、散歩や運動などの機会も多く持っていただくように心掛けている。</p>	
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを促し(出来ない方に対しては声掛けの他に介助も行っている)、状況に応じて確認している。また、歯磨きが上手にできない方に関しては、歯磨きの仕方の指導も行っている。</p>	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分摂取量のチェック及び食事摂取量の確認も行っている。また、献立表を作成し、栄養バランスも気をつけている。</p>	<p>○ 勧めても水分が摂れにくい方に対して、個人の好みに合った物の提供などもしっかり対応してく。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>感染症予防マニュアルを作成し、全スタッフが常に確認できるようにしている。</p>	<p>○ 随時項目を確認し、不足している内容を追加する。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	出来る限り取り組んでいる。布巾・まな板等は毎日、入居者様のコップ類や冷蔵庫内の掃除は週1回必ず消毒を実施している。また、食品に関しては、週2回買い物に行く。消費期限の確認を常に行い、期限が切れる前に使用するよう心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	生活感を感じられる工夫がなされている。駐車場横の畑や玄関内外の花の鉢植えや飾りなどを置き、心地よい空間を演出するよう心掛けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節により今のディスプレイを変更するなど、工夫をしている。また、その時の状態により、テレビばかりではなく音楽を流すなど、音に対する配慮を行っている。廊下に関しては、休憩が出来るように椅子やテーブルを配置し、鉢植えを置くなどの空間演出を行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにあるソファーにて、入居者様同士が会話やゲームを楽しめるようにし、一人になりたいときには廊下の椅子で休めるように配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は、本人やその家族が今まで使っていた生活用品や仏壇などを、持ち込んでいただいている。また、ご家族の写真を張るなどし、その方にとって安心して過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	共用空間には、空気清浄機・加湿器・クーラーなどを設置し、必要に応じて窓を開けて換気を行っている。居室に関しては、温度・湿度計を設置し、必要に応じて換気などを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手摺などを利用し、歩行運動などされている方もおられる。また、日常生活上の動線などを検討し、家具を設置するなど、少しでも自立した生活が送れるように配慮している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>それぞれの方に合わせた声掛けや生活リズムを継続し、混乱を防ぐ努力をしている。また、スタッフが全てに対し手を出すのではなく、自分で出来ることは自分で行っているように配慮している。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>駐車場の横に畑を作り、春から収穫に至るまで、入居者様の楽しみになっていると思われまます。また、建物の外回りは、草むしりを日課とされている方にとって、楽しみながら活動できる空間となっている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ① 毎日ある <input checked="" type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ② 家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③ たまに ④ ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>① 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>① ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>① ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

- 夏は散歩、天気の悪い日や冬は棒体操を行い、体を動かしてもらえるように努めている。また、食事の前にはワハハ体操を行っている。
- アルバムを作り、ご家族の方が面会に来られた際に、見ていただき入居様が楽しんでいただいている姿を見ていただいている。
- 各行事には、入居者さんがほぼ全員参加し楽しんでいただいている。
- 入居されている方々が食べたい物や行きたい所のリクエストに応じ、できる限り対応するように心掛けている。
- ホーム主催の夏祭りを行い、地域の方も参加して下さっている。